

令和2年8月

定例教育委員会会議録

十日町市教育委員会

令和2年8月定例教育委員会会議録

1 開催日時、会場

令和2年8月26日(水) 13時30分～16時10分
千手中央コミュニティセンター 2階 集会室

2 出席

蔵品泰治教育長、佐藤美佐子委員、庭野三省委員、浅田公子委員、廣田公男委員

3 説明のため出席した者

子育て教育部長(樋口幸宏)、文化スポーツ部長(金澤克夫)、教育総務課長(富井陽介)、学校教育課長(山本平生)、指導管理主事(佐藤研一郎)、生涯学習課長補佐(樋口具範)、文化財課長(佐野誠市)、スポーツ振興課長(庭野日出貴)、情報館長(長谷川智)

4 会議の内容

(1) 会議録署名委員の指名

署名委員：庭野委員、廣田委員

(2) 報告事項

① 共催・後援等報告

- ・資料のとおり

蔵品教育長

- ・9月22日にアルビレックスのバスケットボールの試合がある。今年度初めての大規模の試合となるが、感染症対策はどうするのか。

庭野スポーツ振興課長

- ・各競技団体の提示するガイドラインをしっかりと履行して実施される。この度の試合は公式戦ではなく、プレシーズンマッチとして、当市で年1回バスケットボール協会の主催で実施されている。子どもたちのバスケットボールに対する思いと、市民の皆さんが一流のプレイを見て、感動していただければありがたい。

② 報告第1号 第二次十日町市子ども読書活動推進計画策定委員の委嘱・任命について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

長谷川情報館長

- ・資料に基づき説明

浅田委員

- ・1学期は学校で読み聞かせができなかったが、2学期は学校から声を掛けていただいた。この状況で、子どもたちがどのように過ごしているのか気になっていたので、楽しみにしている。

(以上の質疑のあと了承された)

③ 報告第2号 NRT（標準学力検査）の結果について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

山本学校教育課長

- ・資料に基づき説明

庭野委員

- ・自己有用感について、「十日町市の学校教育」の中で、グランドデザインに記載がある地域と記載がない地域があり、受け止め方がバラバラのようだがどう考えているか。

山本学校教育課長

- ・グランドデザインに示している学校と、大きく取り上げていない学校がある。中学校の学力向上推進会議や小中一貫教育の統括コーディネーター研修会等では、自己有用感をキーワードにして展開するよう話をしているので、考えていないわけではないが、どこに表すのかということだと思う。

庭野委員

- ・キーワードは、繰り返ししっかりと取り組まないと徹底しないのではないかと。自己有用感を高める授業づくりとは、どのようなことをいうのか難しい。テストの点数が上がれば良いという程度の自己有用感を読み取れるが、勉強して楽しいとか、やって良かったなどの自己有用感、現実的には厳しいのではないかと。

廣田委員

- ・10ページ目の表記が、良い評価なのか悪い評価なのかわからない。他のページと同様の表現をすると、「かろうじて維持している」と理解すれば良いだろうか。それから、全体的に下降傾向であるが、成績のばらつきはどうなっているのか。それと、小学校5年生になる際に下がる傾向があるとのことだが、2年前からその傾向が見られるのは、2年前に5年生に対して何かあったのか。

山本学校教育課長

- ・全体的な傾向では、小学校から中学校に進むとNRTでは3ポイント程度下がることが経験的に分かっているが、その傾向が若干変わってきているという話である。小学生は下がっているが、中学生は50前後を維持していることから、小学校のポイントを中学校で落とさないように頑張っている。しかし、小学校で50ということは、中学校で気を抜けば3ポイント程度は下がってしまう恐れがあるということ表現している。成績の散らばり、標準偏差が大きくなっているかについては、学校ごとに規模が違うので、統計的な標準偏差を全体として見ることは難しいが、標準偏差は小さくなっており、散らばりは狭まっている。平均値のある場所、中央値が下がってきている。つまり、トップが少なく、中位から下位に厚みがある分布になっている。底上げをする学習指導に加え、トップランナーを育てるということ視野に入れる必要があると考えている。5年生のことについては、特段思い当たらない。

佐藤委員

- 子どもたちが勉強しなくなってきたように思う。小学校の4年生、5年生で下がっているということは、理科や社会の教科の教員の対応があるのではないか。小学校の低学年では、社会科や理科という形ではないものが、中学年以上になると教科的なものになる。中学校では、理科が科学や生物などに変わるので、小学校からの理科と社会は、きちんと指導された方が良いのではないかと感じている。小中一貫教育を推進しているならば、中学校の教科担任が小学校へ入って指導し、小学校の教員にアドバイスするなどの交流を行い、理科や社会にもう少し力を入れて、学習の方法を考えてほしいと感じている。

浅田委員

- 今回の考察は、今までで一番危機感を感じる内容だと思う。成績のばらつきがどうなっているのかと思ったが、今の説明で分かった。指導目標について、ばらつきなどの辺りを目指しているのかということも、底上げとトップランナーを育てることが分かった。

(以上の質疑のあと了承された)

④ 報告第3号 WEBQU（学級心理アンケート）について

蔵品教育長

- 事務局の説明を求めた。

山本学校教育課長

- 資料に基づき説明

廣田委員

- 全ての学校で実施されて、その状況を学校ごとに通知しているのか。

山本学校教育課長

- WEBQUは、実施した日の夕方には、その学校の対象となった学年の状況及び分析結果が通知される仕組みになっている。それを教育委員会が報告として受けている。

蔵品教育長

- 今までは紙ベースで実施し、業者に1カ月か2カ月で分析してもらっていたものである。

山本学校教育課長

- 学級の状況は、日替わりで変わっていくものだが、しばらく経ってからデータが戻ってくる形になっていた。

庭野委員

- 要支援群という子どもに対して、どういう指導をするのかが問われると思う。一人ぼっちの子ども、相手にされない子どもに対してどうすべきか。人気がある子どもとそうでない子どもは、歴然としている。

山本学校教育課長

- 学級集団のプロフィールを把握することにより、要支援の子どもに対し学級担任が

どう働きかけるかという面と学級集団をどう変えていくかという、2つのアプローチが出来るようになると思う。WEBQUによって、自分の学級の状況で、学級生活満足群が多いところはそのまま良いと思うし、侵害行為認知群が多いところは喧嘩ばかりしていると捉え、喧嘩ではなく問題を解決する学級集団に変えるにはどうしたら良いか考えるというように、学級担任が様々なアプローチを考える手段に十分になり得ると思う。

蔵品教育長

- ・担任が考える指導というのは、資料の23ページにあるようにするのか。

山本学校教育課長

- ・子どもたちの散らばり方によって、学級の傾向性のようなものが見えてくる。学級生活満足群に集中している学級は、比較的親和的な学級だろうと評価される。満足群がいるけれど、侵害行為認知群が多いような散らばりが見られる学級は、ゆるみが見られ、ルールが確立していない学級集団だと分析される。このような傾向性が見えてくると、学級担任にフィードバックされる情報となり、それに合わせた具体的なアドバイス等を得られるようになってくる。21ページには、学級集団に対してこう指導をすると良いという、学級担任に対するアドバイスシートのような形になっている。集団としてルールに対してどのように認識しているか、子どもたち同士の関係性がどうか、一つの物事に力を合わせて行うことに、どんな心構えを持っている子どもたちが多いか、などが分析される。

蔵品教育長

- ・次は11月になると思うが、5月に実施したものと比較して、変化を確認できる。

佐藤委員

- ・WEBQUの結果は、子ども本人に渡すのか。

山本学校教育課長

- ・保護者には、個別の回答について、子どもが色分けされるので渡す。24ページは中学生に渡すものである。

浅田委員

- ・子どもにこれが渡ると、親に持ってこないことがあるので、確実に保護者に知らせてほしいと思う。

佐藤委員

- ・表現されている内容によっては、直接子どもに渡して、子どもがこれを見て受け止められるのか不安に思う。親子で見るなら受け止められるのではないかと思う。

庭野委員

- ・記述にあるようなことは、当たり前のことであるが、それをできない子どもがいるということで困っているのである。こういう状態の時にどうやって救えるかというのは、アンケートでは限界があると思う。悩みがあったら話しましょうといても、それをできない子どもが現実にいる。そこをどうするのかということである。

山本学校教育課長

- ・そういう悩みを持っているということを見過ごされていた子どもが、教員や保護者或いは本人自身にも自己発見につながるものである。次の段階として、どう対処していくのか検討しなければならない。結果を共有することは大事なことだと思う。

庭野委員

- ・「話せると良いですね」ではなく、話せるための知恵、生きる知恵を示唆すると良いのだが、そこまで踏み込まないなら、それで終わってしまうように思う。折角良いものを始めたのだから、担任と親と子どもが共有し合うと良いと思う。

蔵品教育長

- ・教育現場の意見を取り入れながら、前進して行きたいと考えている。

山本学校教育課長

- ・個別に戻すものをどのような形で保護者にお知らせするかについては、各学校での対応が一律ではないように思うので確認したい。

(以上の質疑のあと了承された)

⑤ 報告第4号 修学旅行の実施状況について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

佐藤指導管理主事

- ・資料に基づき説明

蔵品教育長

- ・私としては、市内のベルナティオに宿泊するという判断をうれしく思う。

庭野委員

- ・新聞で知ったことだが、ベルナティオは、県内の中学校に就学旅行先としてアピールしていたようだ。

蔵品教育長

- ・子どもたちのほとんどが、ベルナティオに泊まったことがないと思うし、市内の大地の芸術祭作品をあまり見たことがない子どももあると思うので、このような修学旅行の形も良いと思う。この一覧表の資料は、校長会に報告する予定があるか。

佐藤指導管理主事

- ・その予定はなかったが、必要であれば報告する。

山本学校教育課長

- ・校長は、もっと詳細に情報交換していると思う。

(以上の質疑のあと了承された)

⑥ 報告第5号 令和元年度十日町市小中特別支援学校における「いじめ・不登校」の状況について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

佐藤指導管理主事

- ・資料に基づき説明

庭野委員

- ・不登校の要因を探しても意味がないし、解決しない。先生が悪い、親が悪い、社会が悪いなどと言って、問題点を探すようなことをしても、絶対に解決しない。要因とは別に、不登校に関わった一人ひとりの職員がどう見ているかで、マイナスに捉えると益々不登校にはまってしまうという印象を受ける。カウンセラーなども学校が悪いなどと言うので、学校が犯人になってしまうと人間関係には良くないと思う。

蔵品教育長

- ・いじめや不登校について今年は、新型コロナウイルス感染症により、子どもたちの心にかかなりの影響があると思っている。

廣田委員

- ・不登校の要因は、複数回答とあるので、本人に対するアンケートなのか。

佐藤指導管理主事

- ・この報告自体が、県教委に報告する項目であることを理解いただきたい。不登校児童生徒に対応した担任などの職員が、要因と思われるものを想定しているもので、アンケートではない。

山本学校教育課長

- ・本人が、要因を申告することはあまりない。よく聞くケースとして、母親が重い病気に罹ったようなときに、子どもが不安から母親から離れられなくなってしまうことがある。それが、不安等情緒的混乱を要因とした不登校傾向ということである。そのような家庭状況をよく知っている学級担任や、不登校対策のための教員と管理職を含めた中で想定し、報告として挙がってきたものをカウントしている。

廣田委員

- ・中学校で「クラブ部活不適應」という要因があるが、部活は任意だと思っているので、部活を辞めれば逃れられるのではないだろうか。部活は必ず入らなければならないのか。

山本学校教育課長

- ・学校によって様々であるが、辞めるに辞められないという悩みもあるかも知れない。部活はやりたいが、一緒にいる仲間の中で侵害されているなど、様々な要因があると思う。

(以上の質疑のあと了承された)

⑦ 報告第6号 G I G Aスクール構想の状況報告について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

富井教育総務課長

- ・資料に基づき説明

廣田委員

- ・通信インフラの関係で、テレビでリモート出演などを見るとタイムラグがあるようだが、当市の通信インフラは大丈夫なのか。実験などはしているのか。

富井教育総務課長

- ・当市の通信インフラの状況を含めて確認をしてみるというものが、オンライン授業実証実験の事業になる。タイムラグをはじめ、通信障害が起こり得るのか。家庭環境にあるWi-Fi機器などが、どういうものを使っているのか。また、家庭の機器を使用したときに、どういう問題が起こるのか。そういった問題をあぶり出して、平時に使用するための知見を得ようという取り組みである。

(以上の質疑のあと了承された)

(3) 協議事項

① 学区適正化方針説明会の総括に係る教育委員会の審議日程について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

富井教育総務課長

- ・資料に基づき説明

蔵品教育長

- ・かなり日程が詰まった形でお集まりいただかなければならないことになる。具体的な日時は用意してあるのか。

富井教育総務課長

- ・文書で都合を確認したいと思うが、今この場でも10月中の予定が決まっていれば伺いたい。

樋口子育て教育部長

- ・臨時会については、仮に10月7日水曜日及び10月14日水曜日のご都合はいかがでしょうか。

佐藤委員

- ・まだはっきりしない予定がある。

蔵品教育長

- ・それでは、後日、日程の案を3案程度示して文書で都合を伺いたい。

廣田委員

- ・定例会と臨時会の計4回で協議が終わるかどうかポイントになると思う。11月中旬の総務文教常任委員会というのは、期限があるためなのか。または、これより

遅れてもやむを得ないということなのか。

富井教育総務課長

- できればこれで進めていきたいという希望であるが、必ずしもそうならないかも知れないと思っている。この頃に総括ができれば、12月議会に一般質問をいただくこともできるということを考えている。

蔵品教育長

- 今年の初めころは、6月ごろには総括をしたいと言っていたが、コロナウイルスやGIGAスクール構想の前倒しなどの影響により、遅れてしまっている。できれば、11月中旬に総括を報告させていただき、これをテーマにしながら総合教育会議に市長と意見交換を行うことができればという目論見の中でのスケジュール案ということである。

(4) 議決事項

① 議案第1号 令和2年市議会第3回定例会提出補正予算案の承認について

蔵品教育長

- 担当課毎に区切って事務局の説明を求めた。

富井教育総務課長

- 資料に基づき説明

山本学校教育課長

- 資料に基づき説明

樋口生涯学習課長補佐

- 資料に基づき説明

佐野文化財課長

- 資料に基づき説明

庭野スポーツ振興課長

- 資料に基づき説明

(特に質疑はなく決定した)

② 議案第2号 十日町市信濃川ラフティング事業補助金交付要綱の一部を改正する告示の制定について

蔵品教育長

- 事務局の説明を求めた。

樋口生涯学習課長補佐

- 資料に基づき説明

廣田委員

- 第1条で、児童とその保護者等に対し補助金を交付するとあり、第2条は補助対象者が日本アウトドアサービスとなっている。どちらに補助金が支払われるのか。

樋口生涯学習課長補佐

- ・ラフティング補助事業としては、日本アウトドアサービスに申し込むと6千円が正規の料金であるが、2千円しか請求せず、利用者に4千円補助する形であるが、補助金は日本アウトドアサービスに支払うようになる。

蔵品教育長

- ・廣田委員の疑問は最もだと思うが、この表記で良いのか。

樋口子育て教育部長

- ・代理受領させるという意味であり、補助金を受け取る権利を日本アウトドアサービスに委任するという取り扱いである。その一文を申請書に加える必要があるように思う。

廣田委員

- ・補助対象者という文言でいいのだろうか。

富井教育総務課長

- ・補助対象者は保護者として、お金の流れを記述するのが適切かもしれない。

(以上の質疑のあと決定した)

③ 議案第3号 十日町市文化・スポーツ応援キャンペーン事業補助金交付要綱制定について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

樋口生涯学習課長補佐

- ・資料に基づき説明

廣田委員

- ・お客様の体温を測ることが、施設を利用するときの義務のようになっているが、団体は非接触型の体温計などを持っていないと思う。それは公民館などが貸し出しするのか。

樋口生涯学習課長補佐

- ・非接触型の体温計を貸出することは可能である。

金澤文化スポーツ部長

- ・イベント開催時に公共施設で、非接触型の体温計などを貸し出しすることは可能である。あるイベントでは、固定型1台と手持ち型2台を使用した。

廣田委員

- ・この要綱は変えないでいいのか。

樋口生涯学習課長補佐

- ・変えないで運用で対応したい。

蔵品教育長

- ・非接触型体温計を補助対象の消耗品として買うことができるのか。

樋口生涯学習課長補佐

- ・消耗品が補助対象なので、体温計を買うこともできるが、貸し出しているものを買う必要はないのではないか。それよりも良い講師を招聘するなど、有効に使っていただきたいと思う。

金澤文化スポーツ部長

- ・補助対象は、基本的にはイベント経費ということをイメージしている。終わっても何か物品が残って、その後に団体で使用することはイメージしていないので、審査の際に判断したい。

蔵品教育長

- ・公民館のお知らせなどで、体温計を貸し出しすることをPRしてほしい。

(以上の質疑のあと決定した)

5 その他

① 最近の動きについて

- ・各部長、各課長等が資料に基づき説明

② 9月の主な行事予定について

- ・資料に基づき説明

③ 次回の教育委員会の開催日時

- ・9月定例会 9月28日(月) 13時30分から開催することを確認した。

以上で、16時10分に蔵品教育長が閉会を宣言した。

以上の会議録に誤りがないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員

会議録署名委員

会 議 書 記